



広報 なかわだ

6月の予定

第368号

キリストの聖体	6月 6日 (日)
イエスのみ心	6月 11日 (金)
教会委員会	6月 13日 (日)
子どもミサ	6月 20日 (日)



2010年 6月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成22年6月6日

聖マルガリータ・マリア・アラコック<脚注参照> (Corrado Giaquinto 1765)

イエスのみ心

主任司祭 小林 陽一



羊と羊飼いをめぐる話が聖書にはよく取り上げられています。羊はイスラエル人にはなくてはならない家畜であり、羊飼いの仕事にはイスラエル人の子供もたずさわっていました。エゼキエル書34章にイスラエルの牧者(羊飼い)について書かれたところがあります。

「主なる神はこう言われる。見よ、私は自らの群を探し出し、彼らの世話をする。私は散らされた群をすべての場所から救い出す。私は彼らを諸国の民の中から連れ出し、諸国から集めて、彼らの土地に導く。」(エゼキエル書34章11節～13節)

イスラエルの民を羊の群に例えて、神は、例えばエジプトにあつて重労働を強制されていたイスラエル人を、エジプトの地から脱出させ、カナーンの地に導き、様々な体験を通して育てられることを、事が起こる前に預言者に伝えておられます。

イエス様は、ガリラヤで宣教しておられたとき、羊を育てている人々をよく見ておられ、たとえ話でそれらを取り上げておられました。

ルカ福音書には、群から出てしまった一頭の羊を追いかけて行く羊飼いの姿が描かれています。迷って群から離れた羊を、羊飼いは懸命に跡を追い、いくら探しても見つからないので、探すことを止めてしまおうかと思うところまでいっても諦めず、ひたすら求め続け、やっとのことで見つけ出します。羊飼いは、その羊を大喜びで自分の肩に乗せ、家路をたどります。家に帰ってくると、羊を群れに戻し、友人や近所の人を呼び集めて、「私の羊が見つかった。いっしょに喜んでください」と頼みます。この羊飼いの姿は、よき牧者イエス・キリストの姿であり、そこに表われている、やさしさと愛情と忍耐、謙遜、穏やかさがイエス様のみ心ではないかと思ひます。

6月11日(金)はイエスのみ心の祝日、そして6月はイエスのみ心の月とよばれています。災害や地震、事故に遭った人々、不幸に直面して住む家や仕事を探している人々を思いやるのが、イエスのみ心に応えることではないかと思ひます。

典
礼
こ
よ
み
(
六
月
)

日	曜		ミサ・勉強会	備考
5	土		主日ミサ(18時)	掃除1G
6	日	キリストの聖体	主日ミサ(9時)	
11	金	イエスのみ心	祭日ミサ(10時)	
12	土		主日ミサ(18時)	掃除2G
13	日	年間第11主日	主日ミサ(9時)	
19	土			掃除3G
20	日	年間第12主日	子どもと共に捧げるミサ(9時)	
24	日	洗礼者聖ヨハネ誕生	祭日ミサ(10時)	
26	土			掃除4G
27	日	年間第13主日	主日ミサ(9時)	

<注>カトリック中央評議会のホームページを参照下さい (<http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/memo/mikokoro.htm>)

宮内助祭叙階式に参列して

石井 洋子



去る4月29日、聖園女学院に於いて宮内助祭様の叙階式が行われました。要理学校からは13名の子供達とその保護者をごミサに与りました。私を含め、ほとんどの子供達にとって初めての叙階式参列でした。まず驚いたのは、人の多さです。800名近い方々が参列されていました。次に驚いたのは、神父様の人数です。梅村司教様をはじめ、約100名の神父様が共にごミサをあげていました。すべての神父様が入堂するのに10分程かかったと思います。列の最後の方に宮内助祭様がおられました。とてもにこやかな顔をなさっていました。

2時間以上あった叙階式は滞りなく終わり、中和田教会の子供達はとてもお行儀よく、たくさんのお恵みを頂くことができました。

ミサの最後に宮内神父様がお話をなさいました。その中で私の心に残った言葉は、「この叙階式の最中、私は宮内毅でありながら宮内毅ではない、不思議な気持ちになりました。」です。私も参列していて、この言葉の意味がわかるような気がしました。ものすごく大きな秘跡を目の当たりにし、司祭が誕生することはとても偉大で、奇跡に近いものだと痛感しました。

要理のリーダーとしてこの叙階式に与ることができたのを、本当に感謝しています。子供達にとっても、素晴らしい体験だったと思います。宮内神父様、叙階おめでとうございます。

出エジプトと聖地巡礼の旅：(3) ヴィア・ドロロサ (十字架の道行き)

下村 毅・昭子

<聖書関連は赤字で記載しますので、興味のある方は「聖書」を参考にしてください>

今回は十字架の道行きについて、現地の写真の一部を紹介しましょう。イエスは、ローマ兵に「鞭打ち打たれた」記念教会(今回ミサ)から、宣告の小聖堂より「十字架を背負わされる」第1留が始まる。写真は下から道行きの様にご覧下さい。

— 第10留から14留までは聖墳墓教会内にある —



聖墳墓教会入り口



第14留 イエス墓に葬られる



第12留 イエス十字架に死す



建物の中
モニュメント
第9留
イエス三度倒れる



第13留 イエス十字架より降ろされる
第11留 イエス十字架に釘付けされる
ルカ福音◆「されこうべ」と呼ばれている…23:26～33
第10留 イエス衣を脱がされる

ルカ福音◆遺体を十字架から降ろして…23:53
巡礼者多く待ち時間は3時間程、翌朝に再挑戦し墓石に触れ祈る

ルカ福音◆イエス十字架に死す 23:44～46 イエスは大声で叫ばれた「父よ私の霊を御手にゆだねます」
十字架の基礎石に触れ祈る

— 第2留から9留までは現在の商店街にある —



2010・2・8
巡礼団ミサ後



「鞭打ち教会」イエスがローマ兵に鞭打たれた場所の教会



第1留 宣告の小聖堂
イエスは十字架を背負い歩き始めた
ルカ福音◆死刑の判決を受ける 23:13～24



第3留 イエス初めて倒れる
第5留 イエス、シモンの助力を受ける



幸せの星を目指して

～ 母の願いに ～

武田 幸子

教会の玄関前では、一年中色とりどりの花々が私を迎えてくれます。その中に聖母マリア様が立っておられます。私は合掌して、心の中でこうつぶやきます。

「マリア様、こんにちは。お母さん教会にきました。」

一昨年(2021年)の12月に、母(マリアアナ 吉田 ちかえ)は、93才の生涯を終えました。殆ど老衰の様な状態で天寿をまっとうしました。清らかな優しいお顔でした。教会で皆様に荘厳な葬儀をしていただきましたが、その他にも思いがけない近所の方々や知人などから、花束が届いたり感謝の手紙をいただき、母の人柄を改めて知らされました。

家では普段から口数が少ない母でしたが、近所の方々のお話を優しく聞いてあげていたようです。物静かなのですが、共感する所があったのでしょうか。

私達にも時に優しく時に厳しい母でしたが、何か信念の様なものが一本貫かれていたように思います。



母の生きた、大正、昭和という時代は、日露戦争後の日本が第二次世界大戦で負け、戦後復興していくというまさに日本の栄枯盛衰のドラマがくりひろげられた時代だったのでしょ。

静岡の篤農家で生まれ育った母でしたが、母の父が事業に失敗したりして一家離散の目にあたり、戦争のために食糧に困って栄養失調になったりして辛酸をなめた時期があったようです。

「日本はね、昔はすご

い貧乏だったんだよ。」

「今は便利すぎる世の中だね。」

と言いながら、下着や靴下の繕いをしていた姿が目に見えかけます。

私の祖父(母の舅)は、札幌農学校でクラーク博士に習ったそうです。祖父はクリスチャンで、英語の通訳をしていたそうです。その祖父のすすめで箱根の強羅教会で入信したそうです。

その祖父に、

「貴女は、必ず幸せになるよ。」

と言われ、その言葉を胸に秘めどんな辛い苦勞も乗り越えてきたのかと思います。幸せを願うその気持ちが強く、私の名前も幸子とつけたと話してくれました。

私が結婚して一緒に住んでからは、仕事をしている私のかわりに姉と弟のふたりきょうだいを一生懸命に育ててくれました。その母が自分の願いを表して、

「洋一が高校生になったら、広島と長崎を見に行きたいもんだね。」

と、言いました。その夢は洋一が高校2年生の時に実現することができました。おばあちゃんと若者という面白い二人組が原爆ドーム前で写真に写っています。

母は自分のことは後にして、常に家族や人のことを優先する人でした。葬儀の後のお別れの時に、私は慎ましく清らかで可憐な花のような母の顔を思わず抱きしめたい衝動にかられたぐらいです。

正直者で一途で敬けんな母の生涯に私から送る言葉は次の詩編の一節です。

流れのほとりに植えられた木が、
季節になると豊かに実り、
葉もしおれることのないように、
この人の行ないも実を結ぶ。

「詩編 一ふたつの道」より

歌の練習に参加しませんか？

宣教グループ 石井悠子

宣教グループの活動の一環として、この度、聖歌やその他みんなて歌いたい歌などを練習する会「セシリア会」を始めました。

■日時：毎月、第一と第四水曜日、午後12時30分～2時

■場所：中和田教会聖堂

指導して下さるのは、藤沢福音コール、泉区民クリスマスなどのメンバーであり、また、声楽の専門家でもある中原香子さんです。発声法など基礎から丁寧に教えてください。将来的には、教会外の方々にも参加して頂ければ・・・との希望もっています。みなさまのご参加をお待ちしています。教会外の方でも構いませんので、歌の好きなお友達がおられましたらお誘いください。

岩淵委員長の コラム



■5月23日に宮内新司祭による中和田教会での初ミサが行われました。お祝いのパーティーも和やかに行われ、楽しい一時を過ごすことができました。ご準備に当たられた皆様、ありがとうございました。

■5月30日には恒例の雑草取りと樹木の剪定など庭の清掃が行われました。心配された雨も降らず、涼しい中で作業もはかどりました。御協力頂いた皆様、有り難うございました。また刈り取った草木の廃棄では武田さんに大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。

■これまで、教会建物を考える会が活発に活動してきて下さいました。多額の予算を使用するため、委員会としての統制という観点から体制見直しを検討して参りま

したが、専門性やボランティア活動の意義を考慮し、この活動を継続すると共に、ここで出た案を正式に承認し、実行に移すための機関として建設委員会(小林神父様、正副教会委員長、財務委員、建物を考える会の正副座長から構成)を発足することになりました。もちろん重要案件は臨時信徒大会等で総意を確認することになります。

一方、これまで福島副委員長が兼務された営繕関係の仕事は、新たに営繕グループを発足して実行していくことになりました。新グループへの積極的ご参加をお願い致します。

教会建物を考える会(毎月第四日曜日)は、興味のある方どなたでも自由にご出席頂き、多くの方々で議論していくことに意義がありますので、お気軽にご参加下さいませよう御願ひ致します。

委員会だより

△5月9日(日) 11名出席▽

■小林神父のお話

(別資料に基づく)

①4月29日 宮内司叙階式

多くの信徒の協力・参加に感謝

②5月23日 宮内司祭の中和田初ミサ準備

・第4週なのでいつもの通り一子どもミサ一でやる。既に高校生に侍者お願い済(2名)

・ミサ後のパーティは井上さん主導で計画(中学生会で打合せ、別途A、B地区代表とも連携)

③パウロハー・ミントウ助祭の司祭叙階式が5月25日にベトナムフークオン教会にて挙行される

・お祝いは、各小教区の初ミサでやって欲しい(司教の指導)

④梅村司教より:

・「成人のキリスト教入信式」儀式書を各小教区で研究して欲しい

・赦しの秘跡に関する「素晴らしき発見」も活用して欲しい

⑤中学生に関わるリーダーの為の研修会が6月26、27日に函嶺白百合学園で開催される

⑥4月27日発表の教区人事

⑦共同宣教司牧サポートチームかながわの研修コース応募状況

■報告・討議事項

(1)宮内神父叙階式(前述済み)

(2)カンペンハウド神父ダイヤモンド祝

・大勢の方が参加して盛大に行なわれ、中和田から岩淵、下村両氏出席

・中和田から謹呈したお祝い「麦60本」が大うけだった

(3)宮内神父初ミサのお祝い(前述済み)

・パーティ予算は引き当て済み(財務)

・パーティ規模は、前例に基づき「拡大サロン」形式で行なう(子どもも主体)

(4)庭清掃 5月30日に実施する。

(5)スケジュール確認



・6月は「イエスのみ心(6月11日(金))」があるので、初金ミサはなし。6月11日ミサは10時

・6月29日の「聖ペトロ・聖パウロ(祭日)」は、月修と重なるため、ミサは無し

・土曜日の掃除担当を7月以降入れる

・建物・営繕関係の正式グループ化の検討結果(建物を考える会)

・建物を考える会のボランティアの性格に鑑み、専門性、オープン性、フレキシビリティを維持する観点から下記指針を進めたい:

▼「建物を考える会」は従来どおりの活動を継続。専門知識と出来るだけ多くの参加者により深い検討をしていく

▼正式機関として教会委員会の下に「建設委員会」を設置(常設)する

▼「建物を考える会」で出てきた大きなテーマにつき、実施に移す段階で、建設委員会と詳細に討議し、予算執行を含めた意思決定を行なう

▼建設委員会が出た結論を教会委員会に報告、了承を得て正式に動き出す

▼建設委員会の構成メンバーは、小林神父、正副委員長、建物を考える会の正副会長、財務委員

▼建設委員会の開催は必要となるときのみ

《議論・コメント》

・祭壇まわりの改修については、いろいろ意見がある。

・従来重要な案件については、臨時信徒大会を開催して諮って来たが、この体制下で臨時大会をいつ召集して審議するのか?

・他方、信徒大会を開催しても、あまり関連な意見や議論が出てこないという課題もある。

・健全な教会財政の視点から、年度予算執行額の上限を設定すべき

《委員長所見》

・祭壇まわりの案件は必ずしも多数決で決める事項ではないが、説明・審議を尽くして総意を纏めることが重要である。臨時信徒大会を召集して諮る案件の基準(重要度)を一律

に決めることは難しく、召集タイミング含めて検討継続していく。

・本件に限らず、信徒の皆さんの意見の吸い上げは重要課題として認識しており、次回委員会から審議を始めたい。

・建設予算執行額の上限定額は年初からの懸案課題であり、これについても次回委員会から審議を開始する。

《★》従来から、「建設」と「営繕」は区分が不明確であったが、上記の議論を通して、今後以下のように所轄内容を分離して運営を明確化する。

・建設 建物を考える会

・営繕 建設委員会→教会委員会

(7)祭壇の件(建物を考える会)

・4月25日に久我神父(教区典礼委員長)に中和田に「足労願い、ご指導頂いた。カトリック教会としての「考え方」を中心にご指導頂いた。

▼祭壇の十字架の件は、ご像がある方が、またその場合十字架にご像がついている方が良い由。

・このご指導を踏まえて、現在は既存の十字架上にご像を置く方向で検討を進めている。

・ご像以外にも、内陣、祭壇、椅子、など課題は多く、他にも聖櫃、放送設備、信者席の椅子など多々あり。総合的に検討を進める。

(8)第五地区共同宣教司牧委員会(報告)

・「伝える分科会」の報告資料を配布

・戸塚教会から戸塚・原宿・中和田の三教会のお話し合い提案があり、7月17日に第一回目を戸塚教会で行なうこととなった。今回は取りあえず、小林神父、正副委員長で対応する。

・「教区長の時間」に関するアンケートは別途回答内容に関係者で検討する。

■各グループの報告・審議事項

(1)教会学校

・本年度の合同遠足は叙階式参列に変

えたが、事故もなく無事終了。子どもたちも喜んでいた。

・今後、夏のキャンプに向けて行動。

(2)行事

・武田さん(地区代表)が出席して自己紹介と状況説明。

・昨年はインフルエンザ対応でバザーを開催しなかったが、石川さんからいろいろ引継ぎを受けている。

・開催は10月31日として準備を進める。

・来週にCD地区が集まって相談する。

(3)典礼

・6月スケジュール確認(前述済み)

(4)営繕

・月一回の全員掃除の実施について相談したい。

・パンフレット類を置くラックを、下駄箱のあとスペースに設置する。

(5)広報(特記事項なし)

(6)総務

・総務メンバー公募、掲示済み

(7)福祉

・チリ地震の義援金をカリタスジャパ

ン経由で送った

・お米を戸塚教会に届ける活動を継続中。

・一人暮らしの方がいるかどうか調べる方法についてお話し合いを始めている。

(8)財務(別資料で説明)

・特記事項は、教育養成費、叙階祝い金、四旬節愛の献金など

・教区事務局から「資産運用基金への拠出について再徹底」の指示を受領

(9)宣教

・宮内神父叙階式の写真集を購入

・8月7日、9日でキャンプを計画

・第3日曜日は中高生会の活動日として徹底していく

(10)ヨゼフ会

・鶴田代表幹事が、別資料で4月18日の例会のお話し合い内容を説明

以上

(次回は6月13日)